

Tsuchiu**Rise**

土浦市都市計画マスタープラン(第 5 班版)

2015 年度マスタープラン策定実習 5 班

班長 堀 龍一

副班長 ER-RBIB RIM

富尾 祐作

星野 萌々子

TA 富田 真紀

目次

1	土浦市の現状	4
1.1	土浦市の概要	4
1.2	人口	4
1.3	新治地区	6
1.4	北部地区	6
1.5	中央地区	8
1.6	南部地区	9
2	まちづくりのコンセプト“おはよう土浦”	10
3	課題と提案	11
3.1	農業の太陽—6次産業化—	11
●	課題	11
●	「土浦のハス」ブランド化	11
●	若い力で地域活性	12
3.2	商業の太陽—文化と出会いのまち—	13
●	課題	13
●	モール 505 リフォーム	16
3.3	観光の太陽—おはよう霞ヶ浦—	18
●	課題	18
●	レジャーマリンスポーツ	18
●	霞ヶ浦情報パネル	19
3.4	子育ての太陽—見守りコミュニティ—	22
●	課題	22
●	フラワーロード	23
●	パトロールネットワーク	24
3.5	防災の太陽—土浦協同病院×総合体育館—	25
●	課題	25
●	防災拠点の強化	27
●	予防医療の普及	29
4	まとめ	30
5	謝辞	30
6	参考文献	31

1 土浦市の現状

1.1 土浦市の概要

本市は、茨城県南部に位置し、平成 18 年に新治村と合併し、面積 122.99 km²、人口 141,181 人（平成 27 年 9 月 1 日現在）となった都市です。東京から 60 km 以内、成田国際空港からおよそ 40 km と、都心からさほど遠くなく、JR 常磐線を利用したベッドタウンとしての需要が見込めます。近年、つくばエクスプレスの開通や、首都圏中央連絡自動車道の整備に伴い、交通網が発展してきています。阿見町、石岡市、牛久市、かすみがうら市、つくば市と隣接し、日本で第 2 位の湖面積を持つ霞ヶ浦を有しています。毎年 10 月の第一土曜日には日本三大花火大会の一つである土浦全国花火大会が開催され、約 80 万人の観光客が花火を見に訪れます。レンコンが特産物です。

1.2 人口

平成 27 年 1 月段階で人口は 141,896 人、世帯数は 58,932 世帯です。コーホート要因法により将来人口予測をしますと、平成 30 年から減少傾向にあります（図 1）。年齢別にみると若者の人口が減少し、高齢化率は平成 25 年から平成 40 年の 15 年間で 24.3% から 27.8% と 3.5 ポイント増加すると予想されます（図 2、3）。

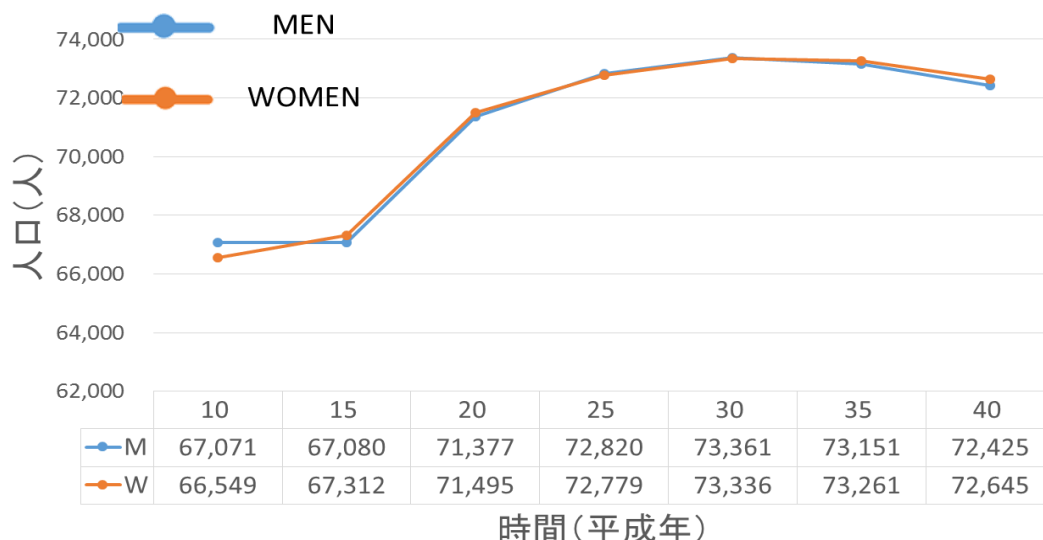


図 1 人口予測

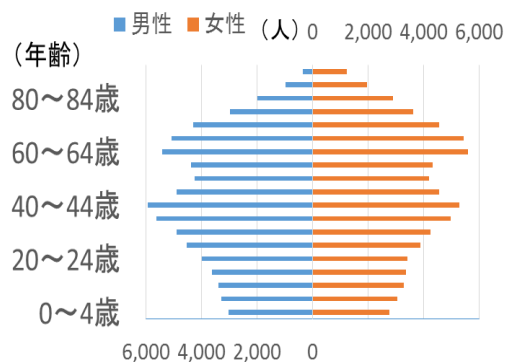


図2 年齢別人口（平成25年）

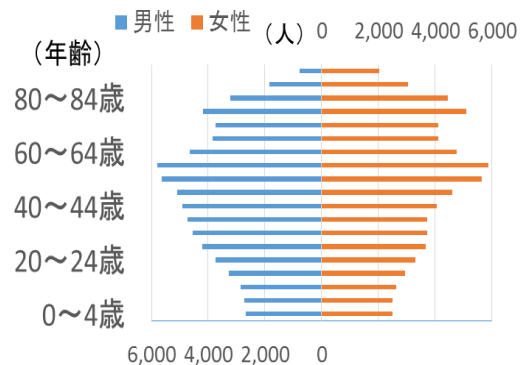


図3 年齢別人口予測（平成40年）

また図4の社会増減（転勤で引っ越しをするなど）によると15～19→20～24歳の進学による社会減少と20～24→25～29歳のUターンによる社会増加しています。ここで25～29→30～34歳から35～39→40～44歳といった子育てやマイホームを買う世代において年代別では1980、1990年代は増加していたが2000年以降になると減少に転じています。

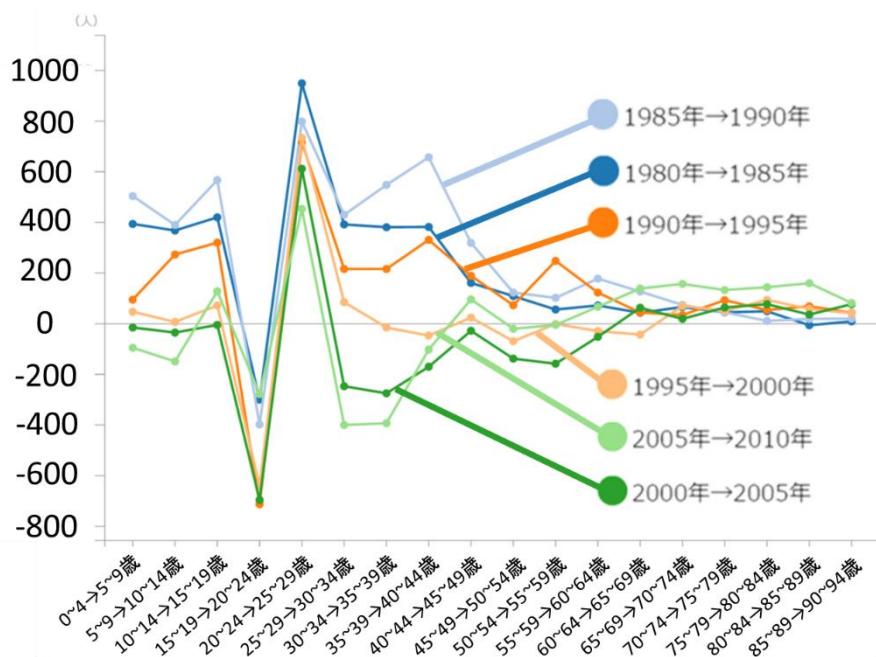


図4 社会増減の推移

1.3 新治地区

この地区は、もとは新治村で平成 18 年 2 月に本市と合併した地区です。かつては農業を主体とした新治村でした。地形的には、北部を石岡市、東部をかすみがうら市、南部から西部にかけてつくば市と接しており、北部の筑波山麓地帯から扇状に中部畑作地帯が続き、西部にはつくば市との境を流れる桜川沿いに肥沃な水田地帯が広がっています。平成 16 年 3 月末の新治村時点の人口は 9,490 人であり、その内訳は、第 1 次産業が 7.0%、第 2 次産業が 14.7%、第 3 次産業が 30.9%です。また、面積は約 32km² で、主な土地利用は水田が 21.3%、畑が 23.3%、山林が 24.0%などとなっており、緑豊かな地区です。

そば打ち体験や田んぼアートの楽しめる小野小町の館、パラグライダー体験や筑波山の眺望が楽しめる朝日峠展望公園、流鏑馬祭りが開かれる日枝神社があります。また、つくばからサイクリングを楽しめるつくばりんりんロードが通っており、豊かな自然を体感できる資源が多く存在します。その一方で平成 27 年度 11 月 2 日には朝日トンネルが開通し石岡-土浦間の交通が便利になるものの、この地区は公共交通網があまり普及してはいません。

1.4 北部地区

この地区は神立工業団地をはじめテクノパーク土浦北工業団地、おおつ野ヒルズといった工業地が並ぶ、本市の工業をリードする地区です。

図 5 は本市における製造業の特化係数（地域の産業比率と全国平均の比較）で、鉄鋼業に大きく特化しています。

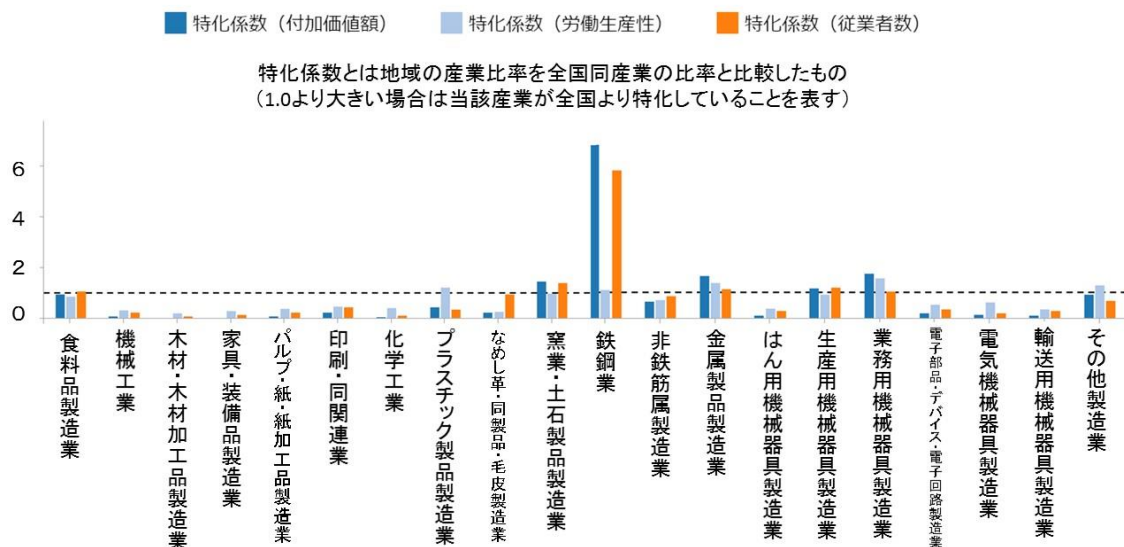


図 5 特価係数

また地域内の事業所数と従業員数は、神立工業団地や東筑波新治工業団地に多数ありますが、おおつ野ヒルズに関してはどちらも少数です（図 6, 7）。

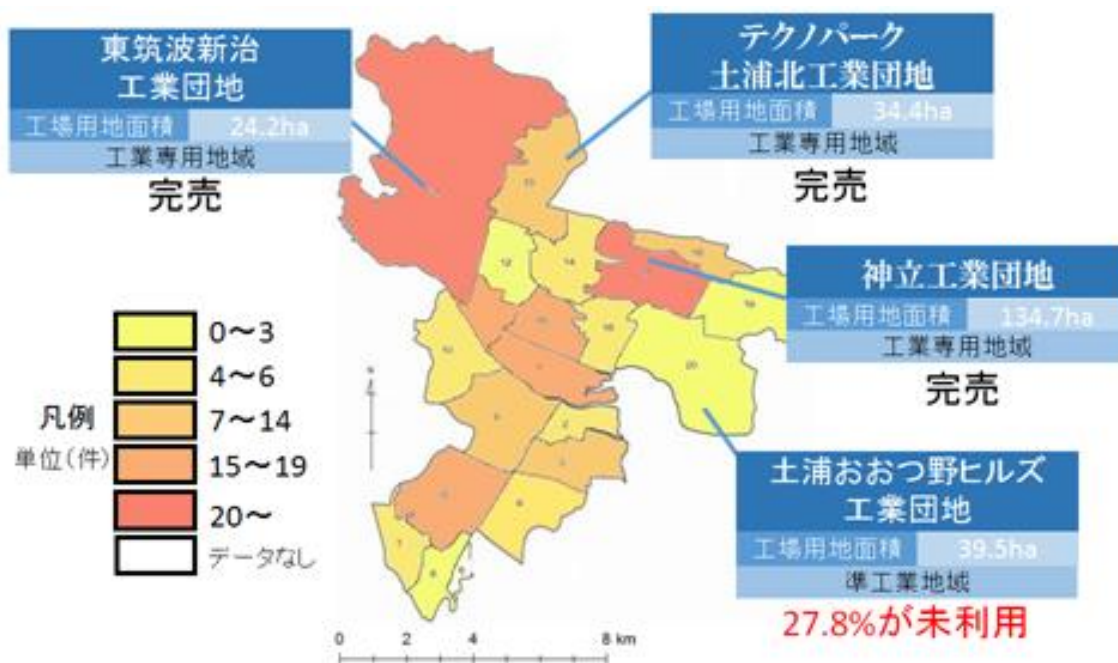


図 6 工業の事業所数

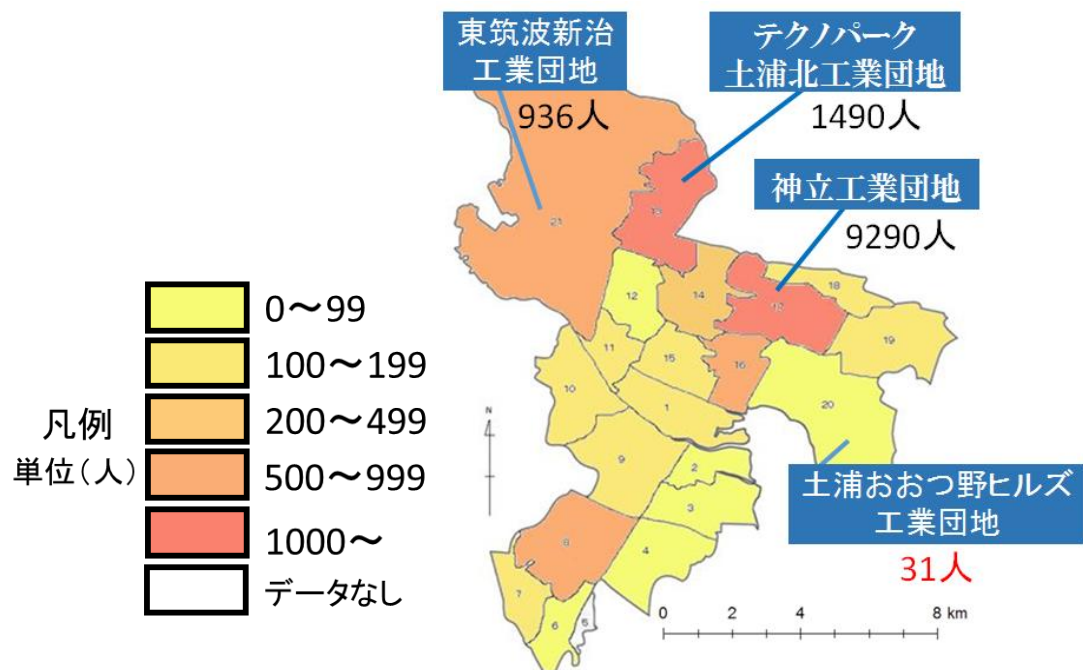


図 7 工業の従業員数

おおつ野は職住近接を目指したニュータウンで住環境に配慮した工業に絞っており、現在ではエコ作野菜を作っている JFE ライフの工場や JA 茨城県厚生連の総合病院土浦協同病院があり、ホームセンター等の商店も並びます。また平成 28 年 3 月 1 日に土浦協同病院が移転してくることに伴い、付属看護専門学校の移転やスーパーマーケットの開店など病院開院の効果と共にその波及効果が生まれています。移転完了後はより一層その効果は大きいことが考えられます。

1.5 中央地区

市の中央に位置し、J R 常磐線土浦駅を含む本市の中心市街地を形成しています。城下町としての歴史を有し、政治、経済、文化、交通の中心地として発展してきました。亀城公園周辺・中城通りのまちかど蔵・真鍋には、歴史・文化的遺産が多く残っています。しかし最近、車でアクセスしやすい郊外の大規模ショッピングモールへ顧客が流出してきました。その結果中心市街地の空洞化が進んでおり、空き店舗数が増加しています。商業の衰退に伴って市街地の景観の悪化がすすみ、らしさがなくなってきました（写真 1）。高架下の空間も暗いため、改善する必要があります（写真 2）。また、霞ヶ浦や桜川の水資源に恵まれているこの地区ですが、水辺への市民の馴染みが浅いと考えられるため空間の活性化が必要です。

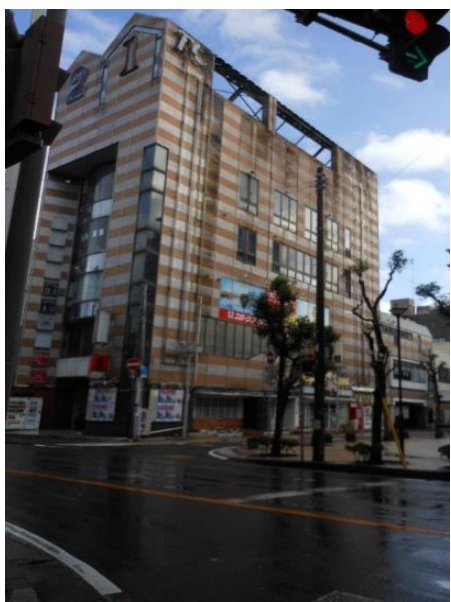


写真 1：景観破壊 H27/12/11 撮影



写真 2：高架下空間 H27/12/11 撮影

1.6 南部地区

この地区は広域交通網が発達しています。JR 常磐線の荒川沖駅、常磐道の桜土浦 IC、圏央道のつくば牛久 IC（つくば市稲岡）という交通拠点が存在します。東北、北関東、東京、千葉、埼玉といった市外への移動が便利です。

霞ヶ浦・乙戸沼・花室川といった水資源が豊富であり、それに対応して霞ヶ浦総合公園・乙戸沼公園・乙戸沼ファミリースポーツ公園など、公園が充実しています。

花火大会やマラソンへの協力を行っている陸上自衛隊霞ヶ浦駐屯地があり、毎年 5 月第 3 日曜日に行われる創立記念行事では戦車やヘリへの試乗ができるなど魅力的な施設です。

荒川沖駅の周辺も道が細く入り組んでいて、中心的な商業施設であった「さんばる」も 2015 年 1 月に閉店しました。その結果、実際に 2008 年 3 月 19 日と 23 日に連続殺傷事件が起きたように、犯罪の発生につながる恐れがあります。

2 まちづくりのコンセプト “おはよう土浦”

本市には、自然・商業・観光・農業など、多くの面で魅力的な価値があふれています。

しかし、このような価値が身近にあるにもかかわらず、活用されていません。そこで以下の提案により、本市の眠っている価値を起こす(RISE)ことを目標とします。具体的には、住宅地・商業施設・農地・大規模な病院・霞ヶ浦等さらなる活用が見込めるものを改善することで、土浦が「人が輝くまち」になることを目指します。



58

図8 コンセプト

3 課題と提案

3.1 農業の太陽—6次産業化—

● 課題

本市の農業は、筑波山麓の豊かな土壌や、霞ヶ浦の豊かな水源を活かしたものです。しかし、農業総産出額はこの20年間で30%減少し、経営工作面積も25%減少しています。また農業従事者の平均年齢は60歳と高齢化も深刻化しています。

● 「土浦のハス」ブランド化

霞ヶ浦湖畔ではレンコン栽培が盛んです。本市のレンコン出荷数は全国1位を誇っており、レンコンサブレやレンコン麺、酢ハスなどの特産品があります。レンコンは土浦を象徴するものであるといえます。しかしレンコンの持つ価値は根だけにとどまりません。茎から取れる繊維でつくる服飾や、蓮の花のアロマに着目したコスメ製品を開発し、「土浦のハス」として全国にPRし、地域活性を図ります（図9）。

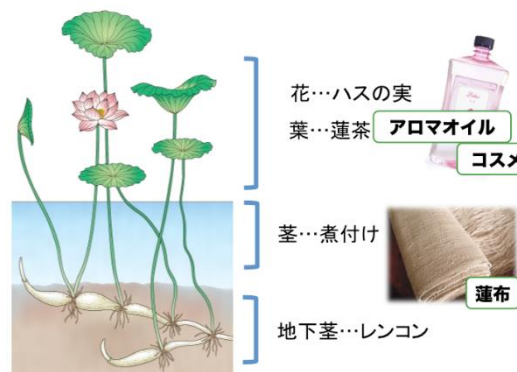


図9 ハスの活用

以下のように、6次産業化ではレンコンだけでなく蓮全体に着目し、新たな価値を創出します。

1次…レンコン(蓮)栽培

2次…レンコンの加工食品製造、製品開発(コスメティック・バス用品など)

3次…蓮の花観光名所「はす工房」の設置、蓮の花商品として全国展開

- 若い力で地域活性

土浦には数多くの高校や各種大学が存在し、地域活性に向けた提案をいくつも行っていきますが、それが実際に実現する例はあまりありません。そこで6次産業化団体が窓口となり、そのような若い世代の発想を実際に農家や企業と結びつけます。

なお、6次産業として事業をおこすための資金や技術的等の不足面は、国の支援機構や各種金融機関の支援によってカバーします（図10）。

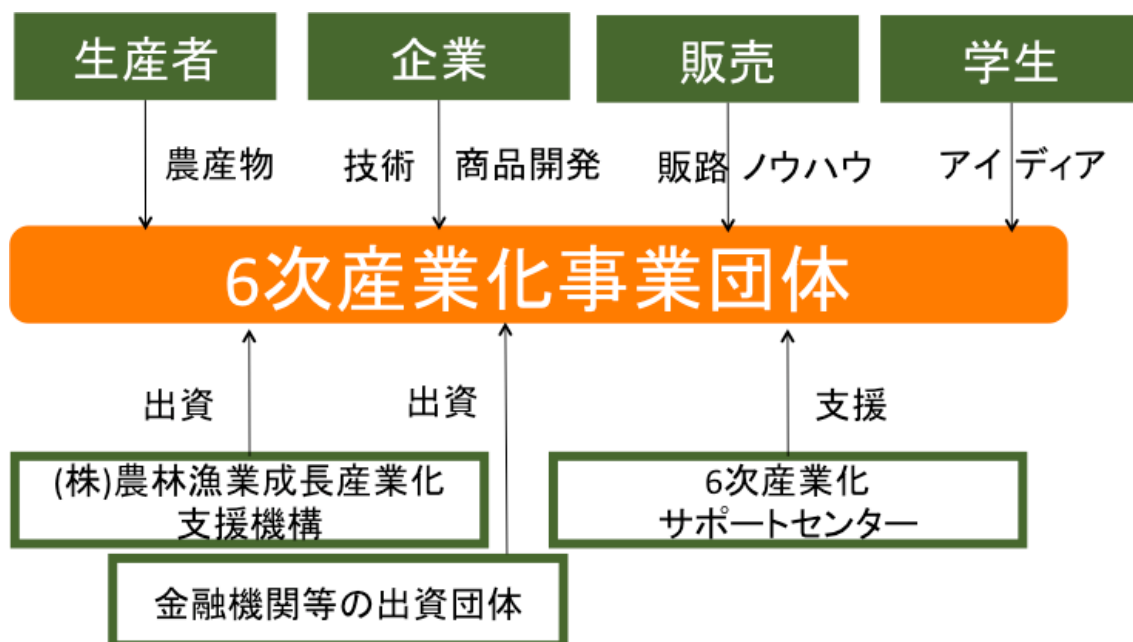


図10 6次産業化

3.2 商業の太陽—文化と出会いのまち—

● 課題

大規模店舗立地法等の緩和やモータリゼーションの進展により商業施設等の郊外化が進み、中心市街地におけるシャッター街化が進んできました（写真3）。本市の郊外の大規模ショッピングモールは土浦イオンモールです。平成21年に開業し、3260台の駐車所を有し、車でのアクセスが容易です。土浦イオンモールの開店を機に、本市の人口は平成24年では487,001人と、平成15年と比べて約128,000人の増加となっています。



写真3 シャッター街化 H227/12/11 撮影

一方、中心市街地では商業が衰退し続け、空き店舗も増えています。平成24年度には空き店舗数が60件を超えました。空き店舗はモール505から亀城公園にかけて広く分布しています（図11）。市が空き店舗対策として『土浦市中心市街地開業支援事業』を実施しています。これによって平成26年度10月から平成27年度12月までで21件が開業されました。

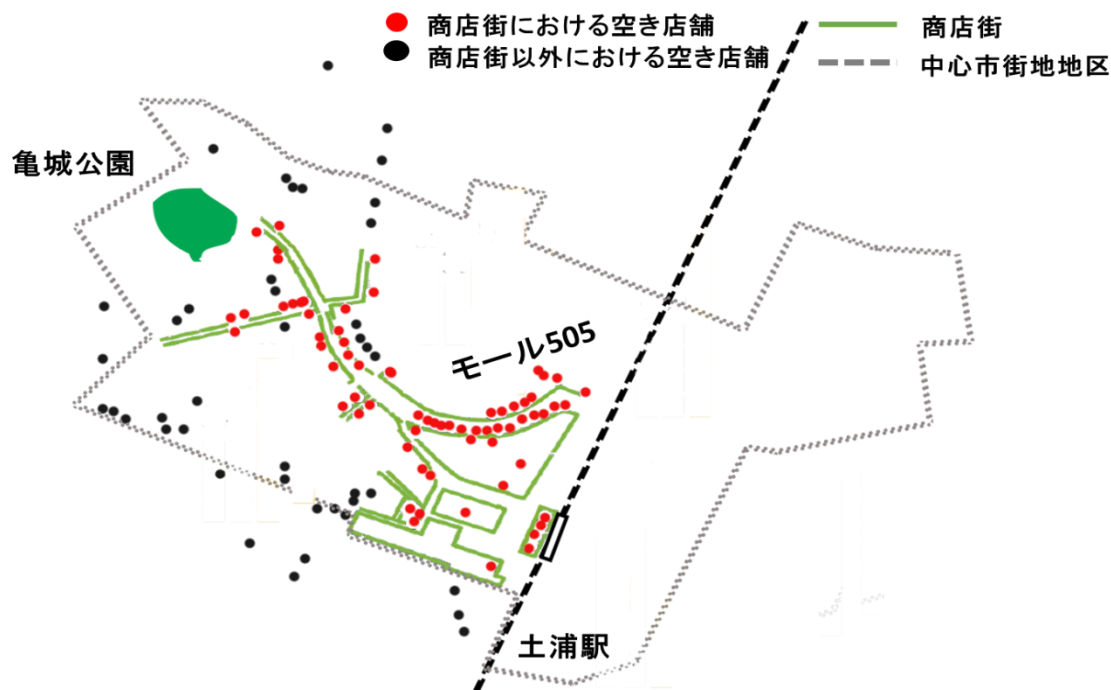


図11 空き店舗の分布

図 12 は土浦市における小売業販売額の推移です。80 年代では土浦市の中心市街地で商業が盛んで、次いで荒川沖駅の周辺でも商業が発展してきました。しかし 90 年代に入ると、次第に販売額が減少し、商業衰退の傾向が見られてきました。郊外もその頃から急速に拡大し始めました。これは土浦イオンモールができる 20 年前の傾向です。よって中心市街地の商業衰退の主な原因が土浦イオンモールにあるとはいえません。代わりに、考えられる理由は隣接するつくば市の発展です。モータリゼーションの進展で土浦市ではなく新しくできた商業施設までいけるようになり、他市へ顧客が流れてしまいます。その意味では土浦イオンモールができて土浦の商業の状況は全体的には良い影響があったといえます。しかしながら市民によって運営された中心市街地の店舗が少なくなり、地域のらしさと文化、商店街で自然に起こる交流もなくなる懸念があります。

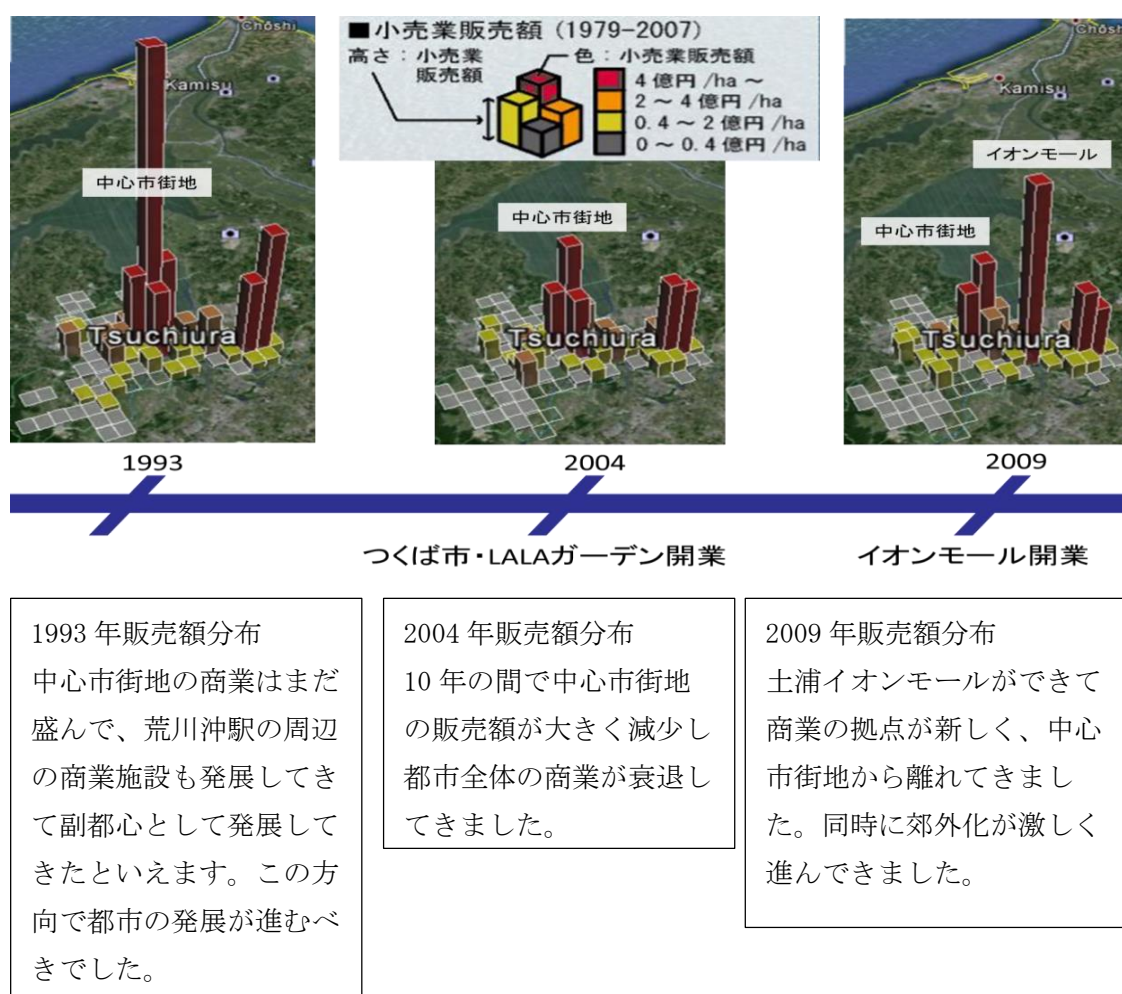


図 12 小売業販売額の推移

また、空き店舗が埋まっているということを仮定した上で魅力度を面積と店舗数として設定し、商圈分析を行った結果は次の通りです。土浦イオンモールの顧客数は中心市街地より多いです。(図 13)

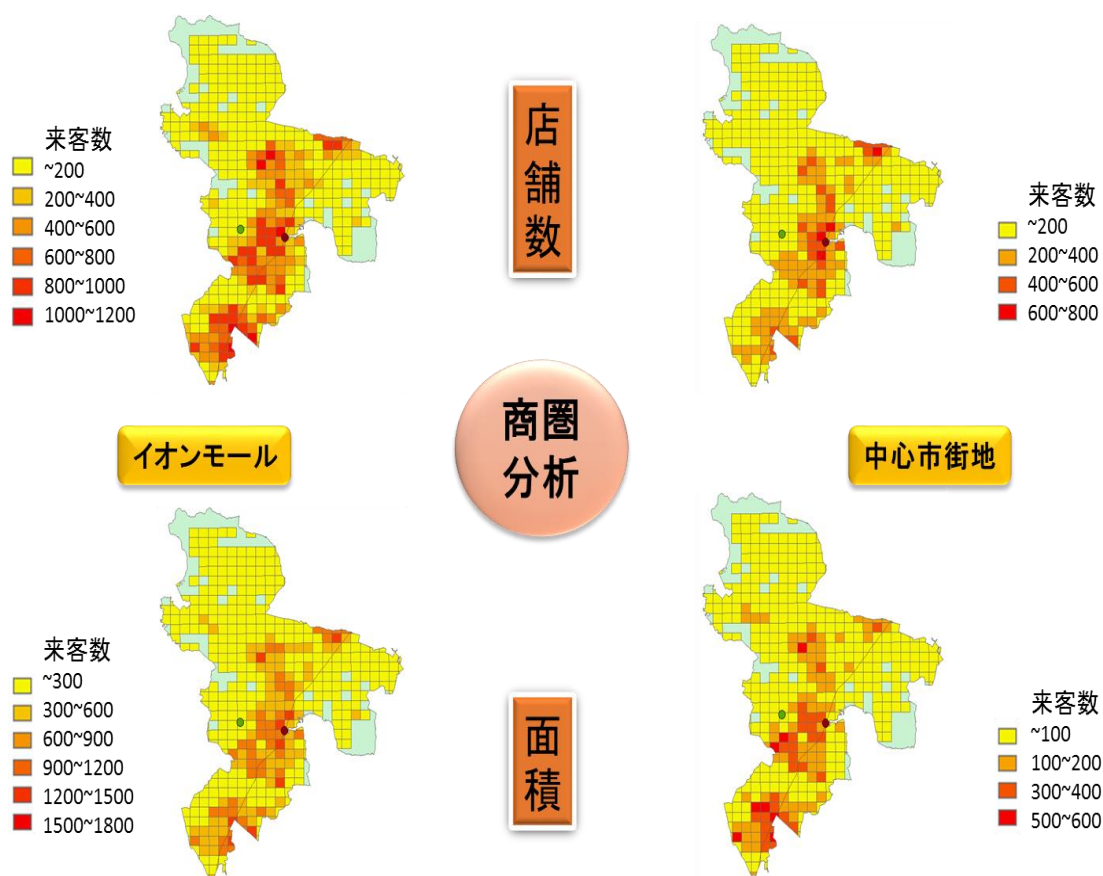


図 13 イオンモールと中心市街地の商店街を比較した商圈分析

以上をまとめると土浦イオンモールが出店する前に、中心市街地の商店街が衰退し始めて、中心市街地の全ての店舗が開業されたとしても、土浦イオンモールのほうが顧客数が極めて高いです。単純に指標化できる店舗数と面積に加えて、簡単に指標化ができないメリットが大型ショッピングモールには多くあります。大型ショッピングモールでは人気のブランド出店やワンストップショッピング、レジャー施設やアミューズメント店の併設で1日中滞在できるというメリットがあります。一方、商店街では何店舗かお店を回る必要があり、一箇所にまとまっていないため歩く時間も長くなります。天気が悪ければ更に不便であり、駐車場の利便性も低いというデメリットがあります。

● モール 505 リフォーム

現時点では中心市街地の商店街の空き店舗を商業施設として活性化しても、郊外の大型ショッピングモールに対して成功する可能性は非常に低いです。そこでまず中心市街地で集客数を増やす必要があります。集客が増えることに伴い商業への需要が生み出せます。

都市活性化基本計画では「新庁舎整備事業」によって公共サービスの拠点である市役所機能や市民交流機能を土浦駅前に配置することで、住民や職人、来訪者を増やすことを目指しています。同じ目的で以下の目的を提案します。

提案の対象地区はモール 505 と古書倶楽部の道です。新図書館をきっかけにして、古書倶楽部と道がつながっていることを利用し、モール 505 のリフォーム（図 14）を行います。

3 階：3 階を一体化し小規模のジムにします。土浦駅を通勤で利用する人が多いため、通勤者を対象に家に帰る前にもしくは職場に行く前にジムに寄ることができるようになります。

2 階：図書館に結ばれるカルチャーセンターにします。料理教室や子供の英語、音楽、ダンス教室などに空き店舗を活用し、全体の教室を一つの受付から利用できるようにまとめます。

1 階：市民によって運営するイベント会場、コミュニティカフェ、土浦市生産物の販売所として店舗の再開を促進します。

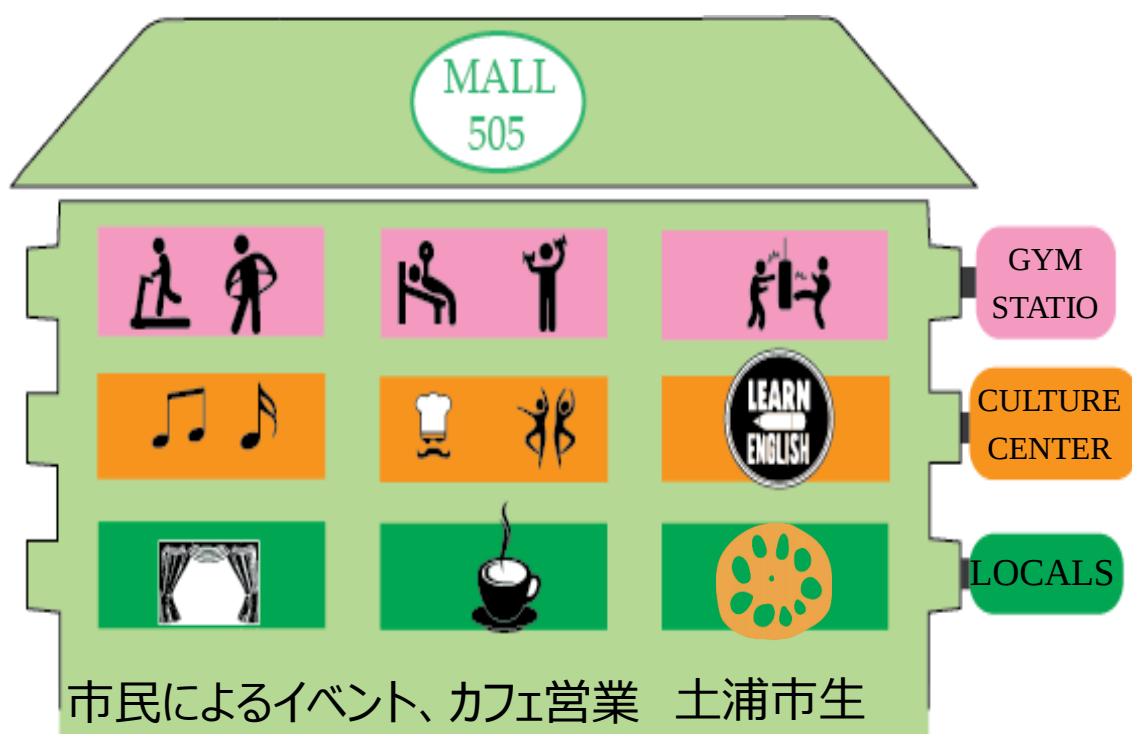


図 14 505 モールリフォーム提案

高校生が中心市街地を通過することが多く（写真 4）、中央地区では高齢者の居住者の密度が高い（図 15）、2 階と 1 階の主なターゲットは高齢者、主婦、高校生にします。図書館の建設で駐車場の容量が増え、モール 505 を利用する人も新図書館の駐車場を利用できるとアクセスしやすくなります。



写真 4 中心市街地を通行する
高校生

H27/12/16 撮影

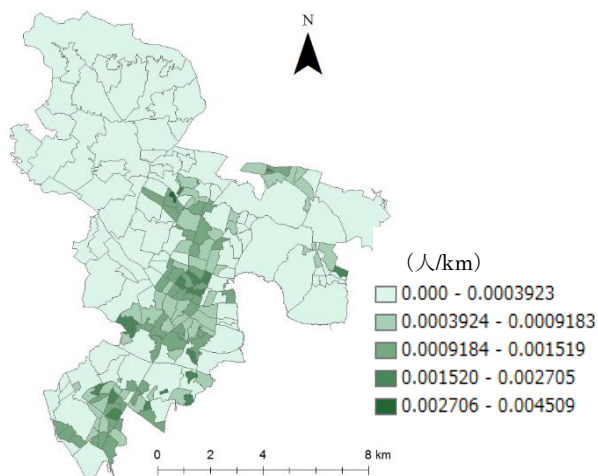


図 15 65 歳以上の人口密度

また、電線地中化や舗装と看板改善などの景観改善で古書倶楽部の道を通ることを促し、モール 505 と新図書館が古書倶楽部の道でつながることを強調する。（図 16）

まとめると、買い物ではなく交流の目的で人が集まって、集客が増えることで、商業施設への需要が生むことを目的にします。

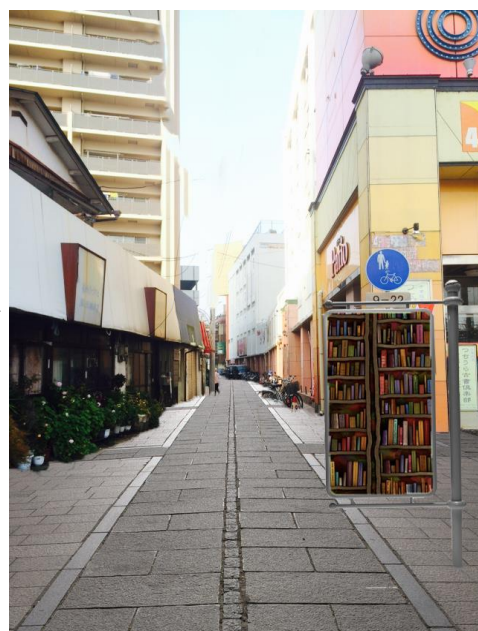
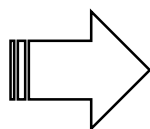
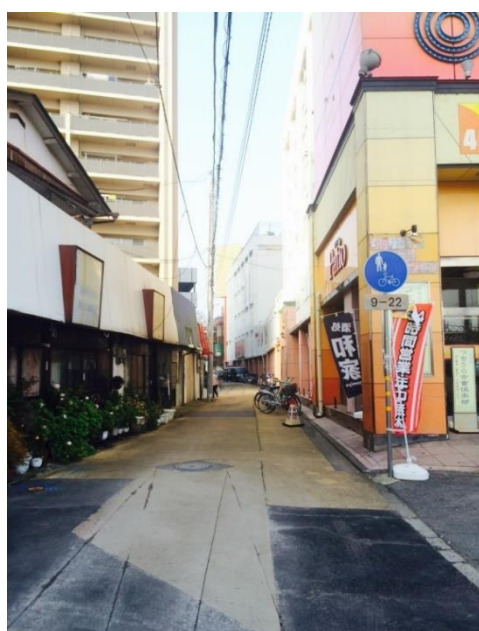


図 16 古書倶楽部の道の景観改善

3.3 観光の太陽—おはよう霞ヶ浦—

● 課題

商業衰退と景観の悪化に伴って歩行者通行数が減ってきました。歩行者通行量調査結果によると、土浦駅から亀城公園までのメインストリートは5年間で歩行者数が2割減少してきました。モール505の地点では減少が5割以上になっています。一方、平成22年と比較して滝の広場前と中城通りでは少し増えてきました（図17）。

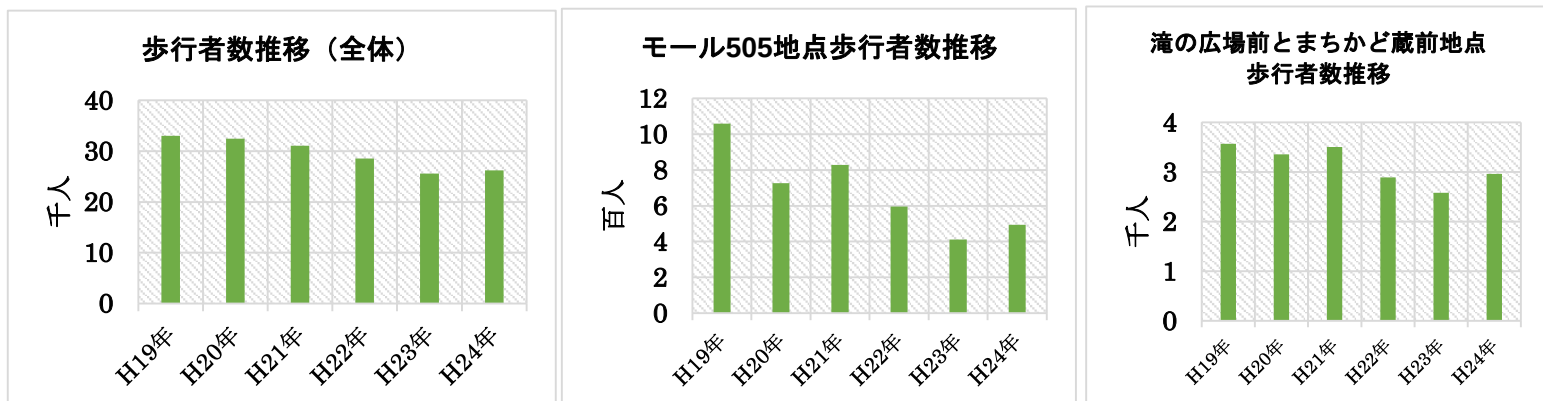


図17 歩行者数推移

土浦への訪問意向について、訪問経験がない人の7割が「土浦に行きたいと思わない」か「どちらともいえない」と回答しました。そして、訪問経験がない人の5割以上「土浦に行きたいと思わない」か「どちらともいえない」と回答しました（図18）。いかに人を呼び込むか、リピーターを生むかといった取り組みが必要です。

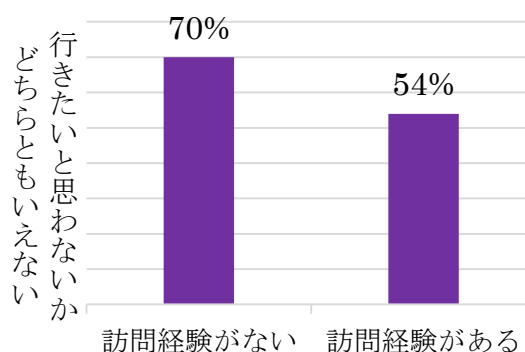


図18 訪問意向

● レジャーマリンスポーツ

そこでレジャーマリンスポーツを提案します。

最近様々なレジャーマリンスポーツが流行しています。例えばスタンドアップボード（SUP）やフライングフィッシュ、バナナボード、フライングフィッシュ、ジェットクルージング、ウォーターボールなどがあります。レジャーマリンスポーツの施設をラクスマリーナや運動公園で導入し、イベントの形でマリンスポーツをどんどん追加していけば、どんどん利用が増えてきます。さらに、都心から1時間しかかからない立地にある土浦駅が霞ヶ浦の近接である利点を活かし、交通費と体験費とあわせて格安の日帰りの旅を提供することで市外から多くの観光客を呼び込むことが期待できます。

しかしながら、マリンスポーツといえば水に顔をつけざるを得ないという問題があります。紹介したマリンスポーツのうち、フライングボード以外は水に落ちる可能性がありますが、水に入り込む必要はないためインストラクターが同行することで問題はありません。他では味わえない体験のイメージをつくる PR 活動も重要です（図 19）



図 19 マリンスポーツの推進ポスターの例

● 霞ヶ浦情報パネル

霞ヶ浦で遊べるようになるためには霞ヶ浦との馴染みと愛着を先に作る必要があります。それは以下の三つの対策で行います。

- ① 霞ヶ浦の環境に関する環境の情報を公開する
- ② 市民にできる霞ヶ浦水質浄化対策の紹介や霞ヶ浦のイベント多く開催しその情報の公開をする
- ③ 中心市街地基本計画の水辺活性化の事業のイメージを紹介する

以上の三つの対策は情報の提供に限るものなので一箇所でまとめて定期的に更新し、集客が多い土浦駅や霞ヶ浦運動公園、川口公園、市役所、ラクスマリーナなどで設置することで、多くの人に情報が伝えられます。

そこで「霞ヶ浦情報パネル」を提案します（図 20）。このように霞ヶ浦との関係が強くなり、霞ヶ浦の現在と霞ヶ浦の未来への馴染みが深くなることによって、市民と観光客と水辺空間の活性化の事業とのつながりを作ることが活性化の成功の第一歩です。

霞ヶ浦情報パネル

今月の霞ヶ浦			
	今月	先月	基準
COD	6.8	7.4	3
窒素	1.3	1	0.4
りん	0.089	0.084	0.03
透明度	0.8	1	1

私たちにできる霞ヶ浦浄化対策

全窒素の排出量約14.3t/日



し尿による窒素の
排出負荷割合12%



厚生労働省たんぱく質の食事摂取基準に従うと

排出負荷割合3.1%減少

(4.85億円/年の費用の減少)

霞ヶ浦にやさしい健康的な食習慣!



水辺活性化事業実施中



事業詳細



図 20 霞ヶ浦情報パネル

補足

霞ヶ浦情報パネルの「実施中の事業」の例：

中心市街地基本計画では「かわまちづくり事業」や「水質浄化噴水施設整備促進事業」などが水辺空間の活性化を目指しています。その内容は霞ヶ浦の眺望を活かした飲食施設や温浴施設、観光物産施設、複合リクリエーション施設整備で霞ヶ浦湖畔に水質浄化のシンボルとなる世界一長い噴水の整備を促進することで観光客を呼び込み、水辺空間の賑わいを創出することです。

霞ヶ浦情報パネルの「私たちにできる水質浄化対策」の例：

今回は食習慣を改善することで、し尿による全窒素の排出負荷を減少する対策を紹介しました。計算の方法は以下の表1のとおりです。

表1 ヒトの摂取するたんぱく質による排出窒素

年齢	人口	たんぱく質g/日.人	→窒素g/日.人	→窒素g/日	基準たんぱく質g/日.人	→窒素g/日.人	→窒素g/日
7-14	13038	77,9	12,464	162505,632	60	9,6	125164,8
15-19	6898	91,2	14,592	100655,616	65	10,4	71739,2
20-29	15293	77,1	12,336	188654,448	60	9,6	146812,8
30-39	20787	78,5	12,56	261084,72	60	9,6	199555,2
40-49	18650	79,6	12,736	237526,4	60	9,6	179040
50-59	18506	83,9	13,424	248424,544	60	9,6	177657,6
60-69	21499	83,4	13,344	286882,656	60	9,6	206390,4
70-	22161	74,3	11,888	263449,968	60	9,6	212745,6
合計				1749183,984			1319105,6

「たんぱく質g/日.人」は「厚生労働省発表の平成15年国民健康・栄養調査結果」による数値です。摂取したたんぱく質量を6.25に割ると排出窒素量を求めます。基準たんぱく質は厚生労働省の推奨量です。

また、窒素の排出負荷を減少するためのコストを計算するための日本の資料を見つけれませんでした。中国の資料を利用し費用を推計しました。

(参考文献：Hao Kong, Hui Lin, Benrong Peng*, Nenwang Chen, Chenchen Lin, Samuel Fielding. “Modelling the cost-effective solutions of nitrogen reduction in Jiulong River Watershed, China” pp: 225)

3.4 子育ての太陽—見守りコミュニティ—

● 課題

一中、二中、三中、四中、六中、都和中地区には14歳以下の人口密度が高い小地区が存在します（図21）。

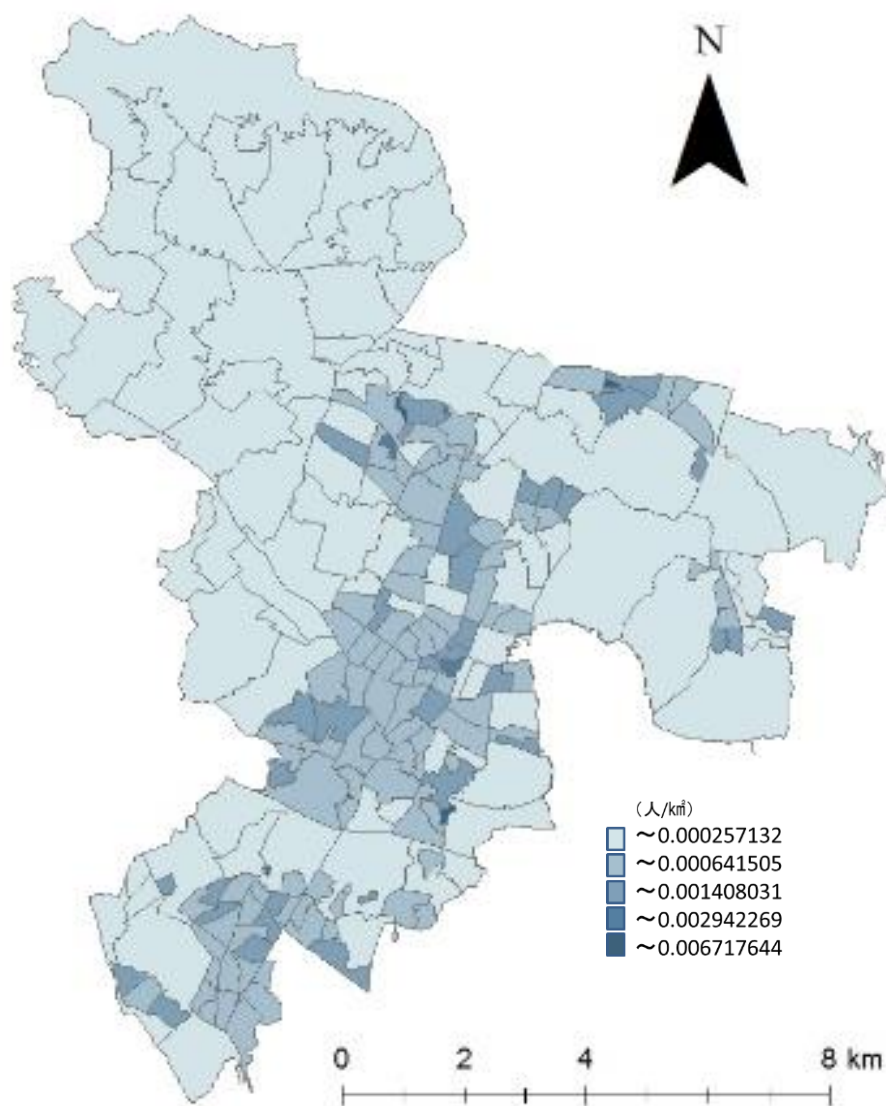


図 21 14 歳以下の人口密度

「平成 25 年度市民満足度調査」の子育てに関する 4 項目において低く評価（5 段階評価のうち「どちらかと言えばそう思わない」・「そう思わない」と回答）した割合を上記 6 地区間の差を比較したところ「犯罪や交通事故が少なく安全である」・「地域コミュニティが良好である」の 2 項目の評価が全体的に低い結果でした（表 2）。よってこれらの改善が必要です。

表 2 満足度が低い人の割合

	一中	二中	三中	四中	六中	都和中	Ave
住居環境が比較的良好である	12.2	11.6	7.6	9.0	8.6	12.2	10.2
犯罪や交通事故が少なく安心である	21.7	29.7	30.8	23.0	19.0	26.8	25.2
教育施設が整っている	17.2	16.7	23.6	23.8	15.4	20.3	19.5
地域コミュニティが良好である	33.3	34.0	27.2	31.9	20.9	60.1	34.6

● フラワーロード

小学校通学路に花壇を配置し、小学生と周辺住民が割り当てられた花壇の水やりを登校時や出勤時に行ってもらいます（図 22）。これによって景観の向上、地域のコミュニティの強化、通学路に対する愛着の創出、周囲の視線による防犯が見込めます。

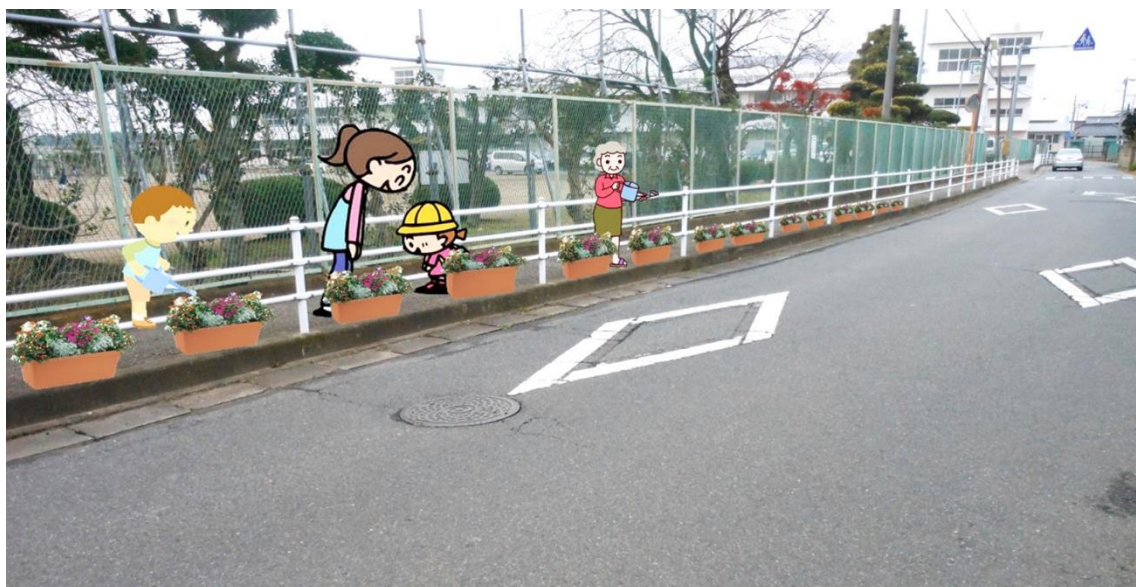


図 22 フラワーロードイメージ

● パトロールネットワーク

既に防犯パトロールが行われている自治会は存在しますが、14歳以下の人口密度の高い地区においてはあまり行われていません（図23）。

パトロールを行っていない自治会のある理由として、人手不足やきっかけがないことが考えられます。そこで、複数の自治体が合同でパトロールを行うことで解決を図ります。しかし、面識のない人同士で有効なパトロールを行うのは難しいです。そこで、各自治体の地区長（町内会長）を収集し「地区長ミーティング」を行います。あらかじめ地区長同士の親睦を深め、役割分担をすることでその後のパトロール活動を円滑に行えるようにします。

地区長を中心に、すでにパトロールの経験のある自治体と経験のない自治体が、まだパトロールが行われていない地区でパトロール活動を行います。こういったことを繰り返し、パトロール経験のある地域を増やしていきます。これによってパトロールを行う自治会の増加、自治会参加者の定期的な集合機会となり自治会活動に対するやりがいの増加、自治体間の距離縮小が見込めます。

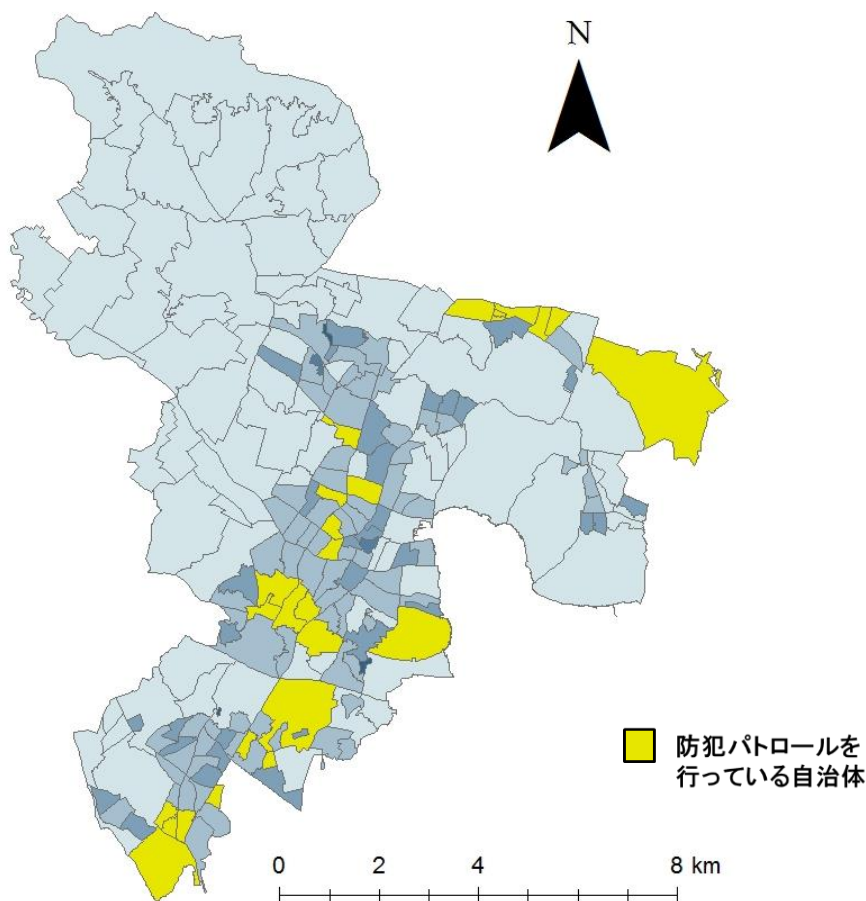


図23 防犯パトロールを行っている自治体のある地区

3.5 防災の太陽—土浦協同病院×総合体育館—

● 課題

土浦協同病院は茨城県の災害拠点病院に位置づけられ、県内では表 3 の様に合計 11 の病院が指定されています。協同病院では救命救急センター及び災害派遣医療チーム両方の特徴を備えており、同様の特徴を持つ筑波メディカルセンターとの協力を図ることで県南が県の医療防災拠点として重要な立場となることが考えられます。

表 3 茨城県災害拠点病院

拠点病院名	対象地区	救命救急センター	災害派遣医療チーム
水戸赤十字病院	全域	●	
茨城県立中央病院	水戸	●	
日立総合病院	日立	●	
ひたちなか総合病院	常陸太田・ひたちなか		
なめがた総合病院	鹿行		
鹿島労災病院	鹿行	●	
総合病院土浦協同病院	土浦	●	●
筑波メディカルセンター病院	つくば	●	●
JA とりで総合医療センター	取手・竜ヶ崎	●	
県西総合病院	筑西・下妻		
古河赤十字病院	古河・坂東		

なお災害拠点病院の条件として

- ・ 建物が耐震耐火構造であること。
- ・ 資器材等の備蓄があること。
- ・ 応急収容するために転用できる場所があること。
- ・ 応急用資器材、自家発電機、応急テント等により自己完結できること。
- ・ 近接地にヘリポートが確保できること。

の 5 つが挙げられます。

おおつ野は付近にゴルフ場をはじめとしてフラットな土地が多いため、有事の際は応急テントの設置による防災拠点にしやすく、また隣接してヘリポートを設置することから災害時に拠点となることが見込まれます。このうち「応急収容するために転用できる場所があること」に関して、周囲の公共性の高い施設を調べると土浦市立上大津東小学校とおおつ野公民館があります。土浦市立上大津東小学校に関しては地震と水害時の指定避難所となっているために転用できず、おおつ野公民館は収容できる規模がないために現状として付近に応急収容できる施設がありません。

また防災だけではなく医療の問題もあります。

協同病院の基本理念は

1. 地域中核病院として多様なニーズに対応する
 - ・救命救急センターを中心とする 24 時間、365 日の救急医療を行なう
 - ・地域の医療機関と連携し、設備と診療体制を整え、高度の医療を行なう
 - ・予防医療から、診断治療、リハビリテーション医療に亘る包括的医療を行なう
2. 人間尊重の医療を追求する
 - ・思いやりに満ちた、平等・適切・安全な最善の医療を目指す
 - ・「説明と同意」(インフォームド・コンセント)を徹底する
 - ・患者様の権利とプライバシーを尊重する
3. 医療の研鑽に励む
 - ・職員は自己の研鑽に励み、医療の進歩に対応する
 - ・臨床研修指定病院として、研修医の教育を担当する
 - ・医学生、看護学生、各種の医療従事者の教育研修に従事する

※引用；総合病院土浦協同病院 HP (<http://www.tkgh.jp/guidance/philosophy/>)

と記述されており、その内 1 の項に予防医療が明記されていますが図 24 の様に市の一人当たり医療費は年々増加しています。そこで予防医療の普及が大切です。

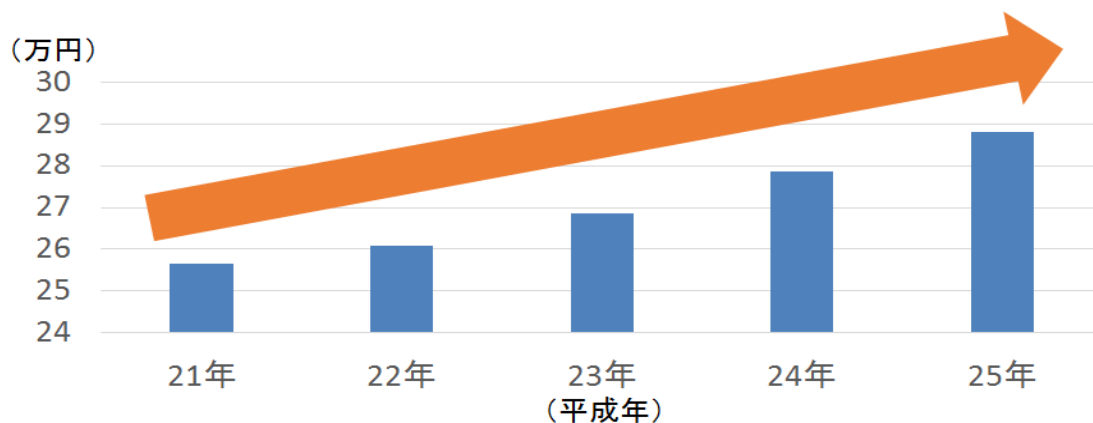


図 24 土浦市の 1 人あたりの医療費

- 防災拠点の強化

応急収容転用地確保と予防医療の普及のために総合体育建設を建設します。

なお協同体育館は兵庫県小野市にある総合体育館アルゴをイメージしつつ「アリーナ」「プール」「調理室」「トレーニングルーム」「会議室」の機能を内包させることでただ運動を行う施設なのではなく料理教室や会合など文化施設としての機能も持たせ人々が集える総合体育館とします（図 25）。

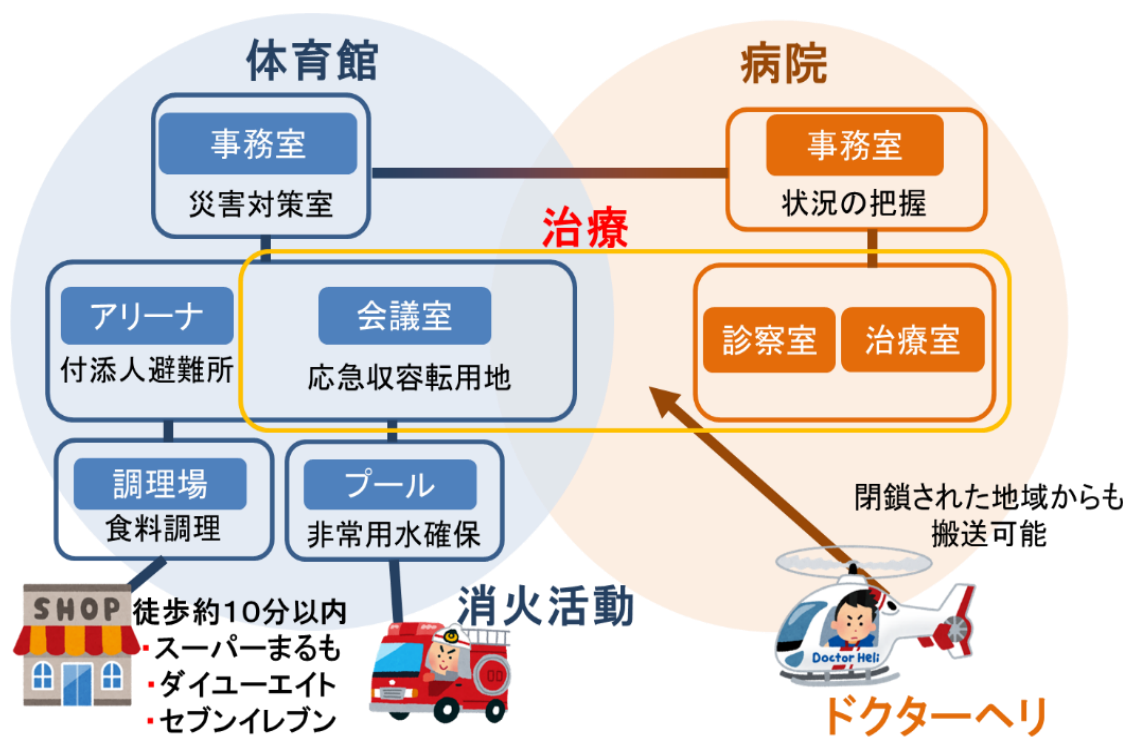
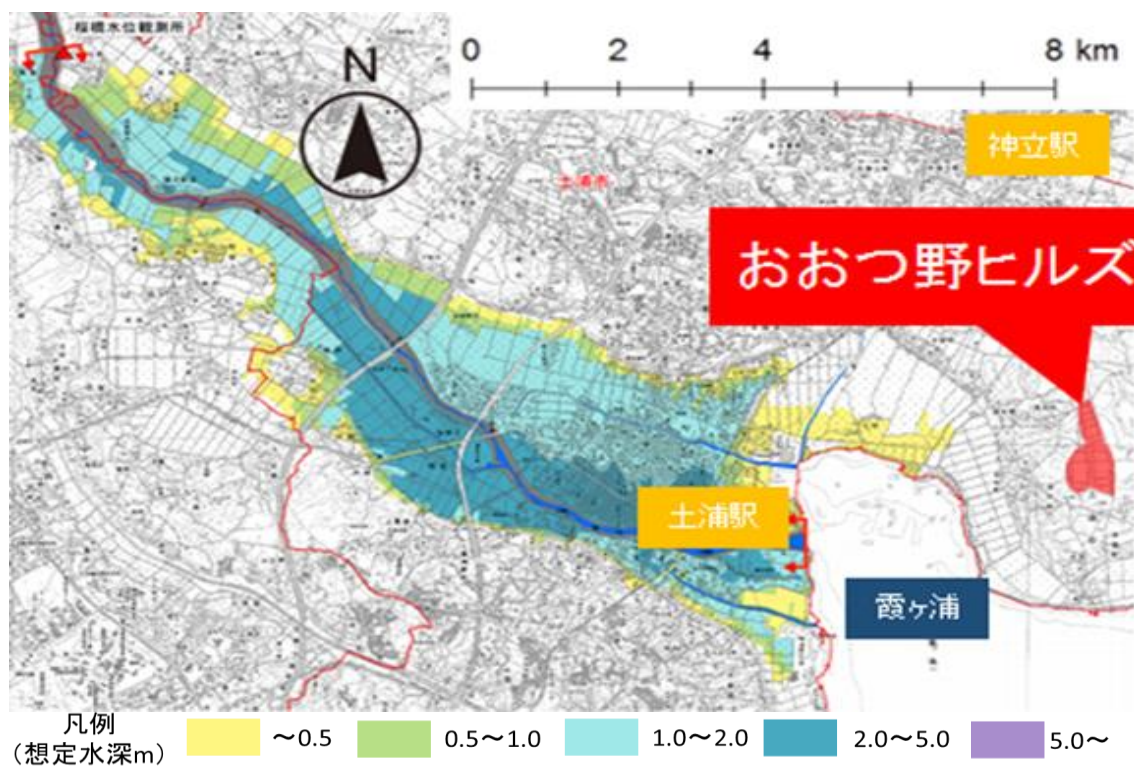


図 25 総合体育館イメージ

応急収容地が周辺にないため、総合体育の一部をその役割を果たす場所とします。

体育館建設地はローム台地で液状化しにくく、地震の揺れにも比較的強いです。さらに市内の桜川・霞ヶ浦付近は浸水想定範囲（100年に一度の大雨を想定）となっていますがこの地区は範囲外となっているため地震・水害に関する耐性が強く、有事の際は機能が止まるリスクが低いいため防災拠点として適しています（図 26）。

緊急時は図 27 のように総合体育館と協同病院が連携を行います。会議室を応急収容転用地とすることで治療できる場の範囲が拡大し、重症な方を優先的に病院で治療し、軽傷の方や容体が落ち着いてきた方は体育館で生活できます。また体育館のアリーナを患者の付添人の方の避難所とすることで患者の方のすぐそばで生活してもらえます。なお体育館建設場所は徒歩 10 分圏内に生活日常品を買える店があり、避難物資と合わせてニーズに答えることができます。さらにプールの水は非常用水となりシャワーやトイレといった生活用水から消火活動にも使用でき、安全で安心な環境が揃います。



● 予防医療の普及

協同病院の基本理念である予防医療を普及させるために病院と体育館が連携を図ります。予防医療は一次予防（適度な運動、生活習慣改善）、二次予防（定期検査、早期治療）、三次予防（病気の悪化防止、再発防止）の3種類に分けられますがその内二次予防は協同病院が行い一次・三次予防に関しては体育館と連携を図り行うものとします（図28）。



図 28 一次予防

また予防医療を総合体育館という枠組みだけで完結せずにおおつ野の豊かな自然を活かして図29のようにランニングコースを設定することで普及させていきます。



図 29 ランニングコース

4 まとめ

農業・商業・観光・子育て・防災の5つの分野で、本市の眠っている魅力を引き出すための提案をしてきました。提案の内容は、仕組みづくりなどのソフト面・施設建設などのハード面に分けられますが、これらの提案の目的は人々の生活を豊かにすることや生きがいをつくり出すことです。

まだ眠っている本市に提案という名の太陽を掲げ、「人が輝くまち」を目指します。

5 謝辞

本実習を行うにあたって以下の方々にお世話になりました。

土浦市役所	都市計画課	東郷 様
		長坂 様
	商工観光課	登坂 様
茨城県立土浦第一高等学校		豊島 様
		太田 様
		松本 様

街頭、土浦カレーフェスティバルにて
ヒアリング調査にご協力してくださった皆様

厚く御礼申し上げます。

6 参考文献

- ・ 土浦市「土浦市都市計画マスタープラン」
(http://www.city.tsuchiura.lg.jp/jgcms/admin74892/data/doc/1398861889_doc_34_0.pdf)最終閲覧 2016/2/4
- ・ 「土浦市中心市街地活性化基本計画」
(https://www.city.tsuchiura.lg.jp/data/doc/1395893268_doc_34_0.pdf)最終閲覧 2015/12/17
- ・ JFE 商事株式会社「土浦ニュータウンおおつ野ヒルズ」
(<http://www.otsuno.com/outline/>)最終閲覧 2015/12/15
- ・ 土浦市「統計つちうら」
(<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/dir001548.html>)最終閲覧 2015/12/17
- ・ 土浦市 HP
(<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page001168.html>)最終閲覧 2015/12/17
- ・ 茨城県立厚生農業協同組合連合会「総合病院 土浦協同病院」
(<http://www.tkggh.jp/>)最終閲覧 2015/12/16
- ・ 「土浦市地域公共交通総合連携計画」
(http://www.city.tsuchiura.lg.jp/data/doc/1274404031_doc_34.pdf)最終閲覧 2015/12/15
- ・ 公共財団法人小野市都市施設管理協会
(<http://www.cityono.jp/index.php?pid=argo>)最終閲覧 2015/12/17
- ・ 大地震対策 info
(<http://dai-jisin-taisaku.info/yosoku/towndetail/415600/>)最終閲覧 2015/12/17
- ・ 平成 22 年度国勢調査
(<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/index.htm>)最終閲覧 2016/1/21
- ・ 平成 25 年度市民満足度調査
(<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page005957.html>)最終閲覧 2016/1/21
- ・ 茨城大学農学部黒田久雄(2007)「土浦地区の水質問題」、pp:3-7
(<http://mizu.agr.ibaraki.ac.jp/kuroda/bunshou/2007tuchiurasuishitu.pdf>)最終閲覧 2016/1/10

